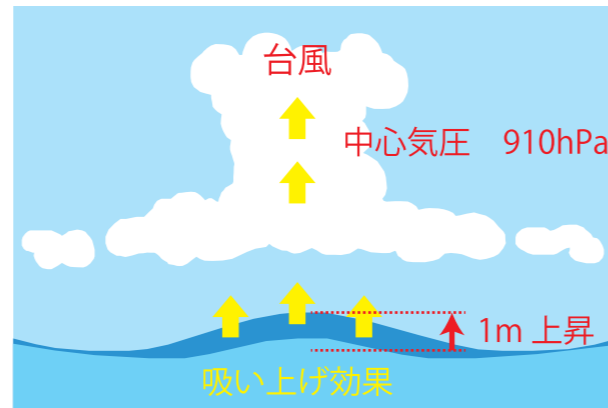
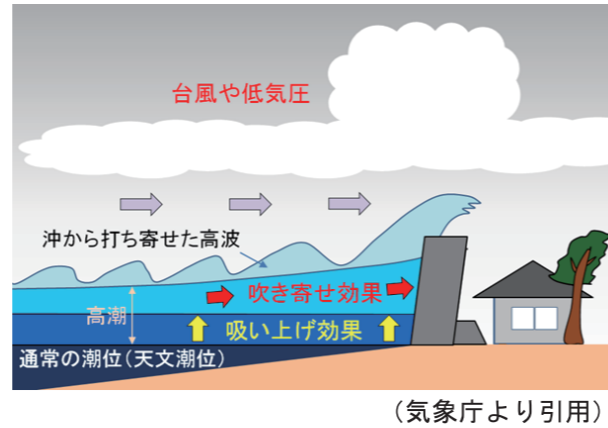
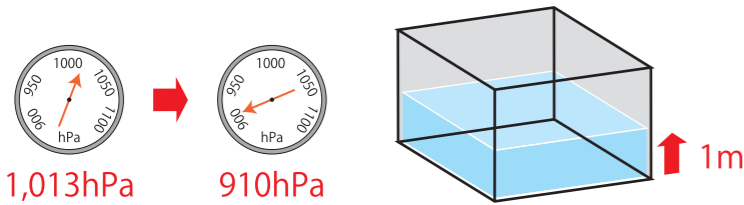


高潮について

高潮とは、台風や発達した低気圧などの影響で気圧が下がり、海面が吸い上げられる効果と、強風により海水が海岸に吹き寄せられる効果のために、海面が異常に上昇する現象です。

短時間のうちに急激に潮位が上昇し、海水が海岸堤防等を越えると一気に浸水します。

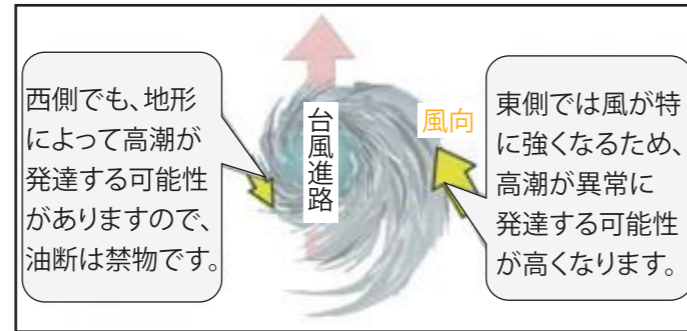
大気圧が1hPa(ヘクトパスカル)低下すると、海面は約1cm上昇します。平常時の大気圧は1,013hPa程度であるため、台風の中心気圧が910hPa程度になると、台風の中心では海面が約1m上昇することになります。



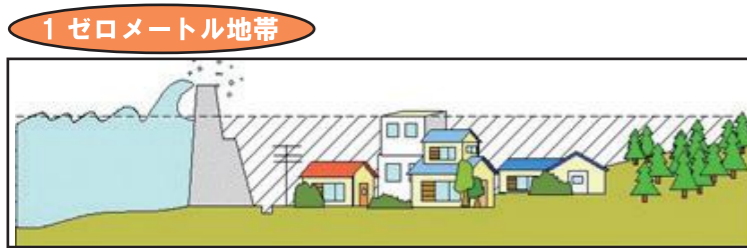
高潮に対して危険な地域

高潮の規模は、台風の規模や通過するコースに大きく影響されます。

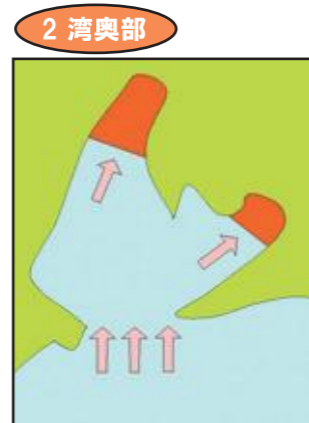
台風の進行方向に向かって右の半円では、台風の移動方向と風向きが同じであるため風が強くなります。



高潮による海面上昇は海底地形や海岸形状により大きく異なります。以下のようなところでは、特に高潮に対する注意が必要です。相生市の地形は典型的な「2 湾奥部」となります。



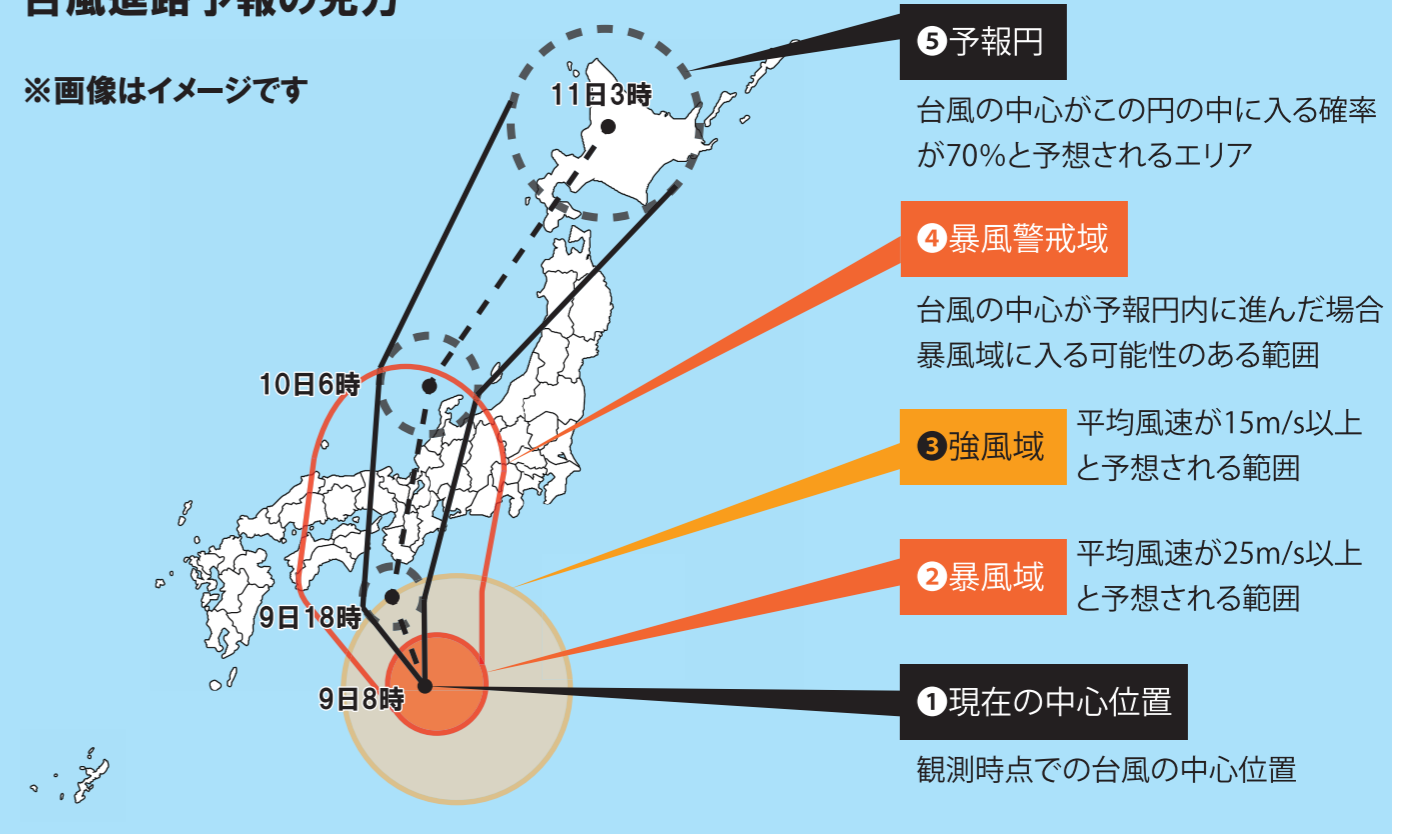
(国土交通省より引用)



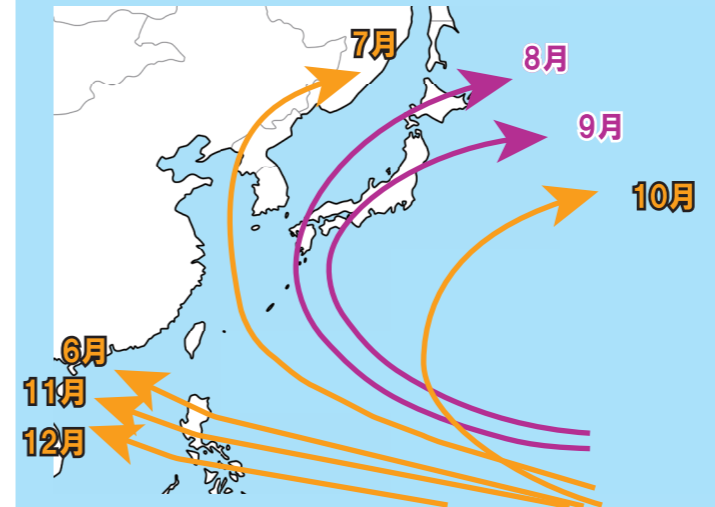
台風の情報

台風進路予報の見方

※画像はイメージです



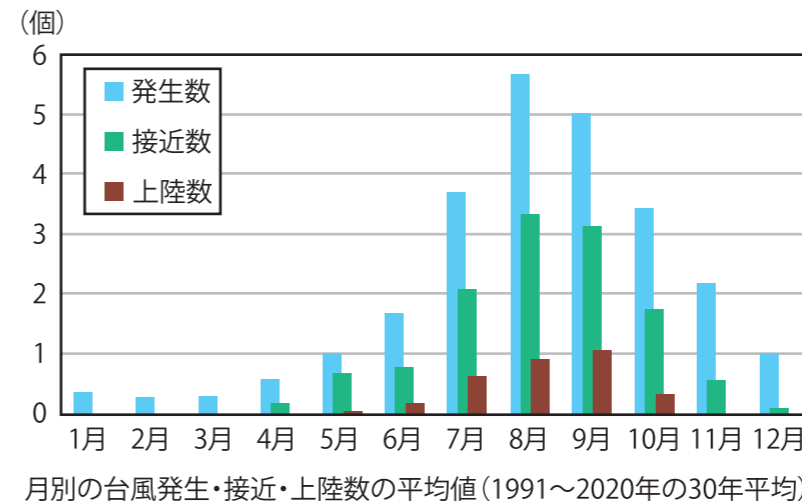
台風の月別の主な経路



台風は、春先は低緯度で発生し、西に進んでフィリピン方面に向かいますが、夏になると発生する緯度が高くなり、日本に向かって北上する台風が多くなります。

8月は発生数が年間で一番多い月で、9月以降になると秋雨前線の活動を活発にして大雨を降らせることがあります。

室戸台風(1934年)、伊勢湾台風(1959年)など過去に日本に大きな災害をもたらした台風の多くは9月に発生しています。



30年間(1991~2020年)の平均では、年間で約25個の台風が発生し、約12個の台風が日本から300km以内に接近し、約3個が日本に上陸しています。発生・接近・上陸ともに、7月から10月にかけて最も多くなります。